



開 会 の 辞

公益社団法人 日本証券アナリスト協会
会 長 小 池 広 靖 CMA

第38回「日本証券アナリスト大会」の開会に先立ちまして、主催者を代表し、一言ご挨拶申し上げます。

「日本証券アナリスト大会」は、日本証券アナリスト協会の認定アナリストであるCMAの役割を、広く社会に認知していただくとともに、CMAの自己研鑽、相互交流を目的として、1986年以来、三十数年にわたり、毎年続いている歴史ある大会です。過去3年連続でオンライン・ライブ配信という形で開催してきましたが、本年の5月以降アフターコロナの日常生活がすっかり定着してきたことから、本年は4年ぶりに会場開催とし、併せてライブ配信も行うハイブリッド方式で実施することにいたしました。

さて、新型コロナウイルス感染症問題は3年超もの期間を費やして落ち着きましたが、世界を見渡しますと、ロシアによるウクライナ侵攻はいまだ解決の糸口が見つかりませんし、インフレに伴う金融引き締めやそれに伴う金融システム不安、さらには米中対立の一段の激化など、世界経済は引き続き不透明な状況にあります。そうした不安定な環境の中であって、日本は「失われた30年」からの脱却を成し遂げなければならず、日本企業には激変する事業環境を機会に転じて日本再生を図る役割が求められております。そしてその役割を果たすためには、人材のリスクリングとエンゲージメントの強化を通じたDX、GX、国際化の推進など、「人的資本の活用」が一つの重要な成長ドライバーになると考えられます。

そこで、本年の大会ではこれを取り上げ、テーマを「日本再生への道一鍵となる人的資本の活用を考える」といたしました。日本再生を目指すために、企業はどのような経営戦略の下に、

人的資本をどのように活用していくのか、人的資本の活用が成長のドライバーとなるメカニズムはどのようなものなのか、企業はこれをどのように開示していけばよいのか、そして、その企業の価値を評価するアナリストはどのような役割を担えるのかなど、大いに議論をしていたきたいと思います。

まず記念講演につきましては、本年もお二人の方にお願ひしました。

初めに、企業経営者の側から、三菱ケミカルグループ代表執行役社長でいらっしゃいますジョンマーク・ギルソン氏に「成長志向の企業文化を育む：三菱ケミカルグループの改革」というテーマでご講演いただきます。

続きまして、スポーツ界のご出身で今治、夢スポーツ代表取締役会長という企業経営者でもいらっしゃいます元サッカー日本代表監督の岡田武史氏より、「チームマネジメント～今治からの挑戦～」というテーマでご講演いただきます。

記念講演に続くパネル・ディスカッションでは、アストナリング・アドバイザー代表の三瓶裕喜氏にモデレーターをお願いし、経済産業省 経済産業政策局 産業人材課長 島津裕紀氏、三菱総合研究所 執行役員 兼 研究理事 シンクタンク部門長 武田洋子氏、日立製作所 執行役専務CHRO 兼 コーポレートコミュニケーション責任者 中畑英信氏のお三方をパネリストにお迎えして、大会テーマ「日本再生への道―鍵となる人的資本の活用を考える―」についてご議論をいただきます。

今回のプログラムが、「日本再生」に向けての取り組みに新たなきっかけを提供する機会となれば幸いです。

さて、ここで当協会の近年の取り組みをごく簡単にご紹介させていただきます。

現在、CMA資格を保有している方は約29,000名ですが、多岐にわたる分野でCMAへのニーズが高まっていることを受けて、一昨年6月より新しいCMAプログラムをスタートさせました。新カリキュラムによる2次試験も本年6月に実施され、これでこのプロジェクトは一段落しました。

そして、個人事業者の方々などの資産運用や事業承継のニーズに応えるプライベートバンカー資格についても、時代とともに期待される役割や求められる知識が大きく変化していることを踏まえ、PB資格制度の見直しを進めてまいりましたが、本年4月より新プログラムによるプライマリー PB試験を開始しました。

●● 第38回日本証券アナリスト大会 ●●

また、NISAの拡充・恒久化などに伴い、一般顧客ごとのポートフォリオ提案を求められるようになってきた金融機関職員向けに、カリキュラムにポートフォリオ理論などを取り込んだ新資格を創設すべく現在準備中です。

なお、講演会やセミナーにつきましては、すでに本年1月から会場に観客を入れてのリアル開催を復活させておりますが、テーマとしてもESG投資関連の分野での講演会や対談、シンポジウムといったものを増やしていく予定です。また、会計基準の公開草案などへは財務諸表の利用者の代表として今後も積極的に意見書の形で情報発信してまいります。

地政学的な問題、インフレの問題、そしてChatGPTのような新しい技術の登場も含め、現在の私たちを取り巻く環境はまさに激変と呼ぶのがふさわしい状況にありますが、そうした中でも、当協会は新たな環境に即応してその社会的使命を果たしていきたいと考えております。

今後とも、皆さまの一層のご協力、ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

最後に、本大会の企画、運営にご尽力いただいている塩原委員長をはじめ、大会実行委員の方々に、この場をお借りして心からの御礼を申し上げます。

以上をもちまして、開会のご挨拶とさせていただきます。